令和8年10月8日(木)
大崎タイムス掲載

最新の土木技術に触れる

佐藤工務店 家族らダム工事現場見学 加美

加美町の総合建設業、佐藤工務店(佐藤敦代表取締役)は3日、同町漆沢筒砂子で建設が進められている「鳴瀬川ダム」工事現場で、社員の家族を対象にした体験型現場見学会を開いた。家族らはICTを活用した建設機械を操縦し、最新の土木技術に触れた。

普段は目にすることができない建設現場を見学することで建設業や現場の魅力を知ってもらおうと、国土交通省鳴瀬川総合開発工事事務所の協力を得て初めて実施。約50人が参加した。

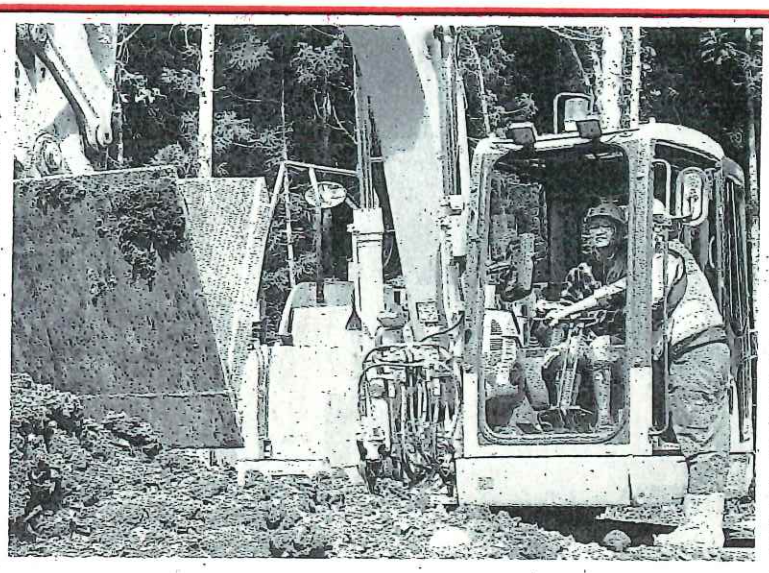
鳴瀬川ダムは、洪水調節やかんがい、発電などを目的とした多目的ダム。2036年の完成予定で、同社は工事用道路の建設を請け負っている。

参加者は鳴瀬川ダムの事業説明を受けた後、5班に分かれ、国交省職員や社員の指導の下、最新の測量やドローン操縦、ICTバックホウ(ICT油圧ショベル)による掘削などを体験した。

ICTバックホウは、GNSS(衛星測位システム)や3D設計データ、各種センサーを搭載した最先端の建設機械。バケットの動きや掘削の深さを半自動で制御するシステムにより、設計面より深く掘り過ぎないよう自動調整する機能がある。

母親が同社に勤務しているという小野田小3年の中川遼也君(9)はバックホウを操作し、「バックホウの乗り心地が良かった。技術がすごいと思った」と感想を語っていた。

大和田弘光・執行役専務(47)は「土木の世界は変化しており、家族から内容を聞いても実際に目にしないと分からない。家族が普段、どういった仕事をしているのか理解してもらえれば」と話していた。



ICTバックホウで掘削体験

最新の測量技術を確認

模型を使って鳴瀬川ダムを学ぶ家族ら